

	チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・今年度より新しい建物になり、園庭には小さいが土山やトランポリンなども設置し、以前よりも活動しやすいスペースとなった。
	2 職員の配置数は適切であるか	○			・10人の利用者に対して、管理者と児発管以外の直接処遇職員を4人配置しており、職員の配置基準は満たしている。限られた職員の中で、個別支援が必要な利用者も含め安全でより丁寧な療育ができるよう、職員間の情報共有や役割分担、活動の工夫が必要である。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	・建物への入口が階段であり、安全面を考慮しスロープを設置した。その他、安全面を考慮しバリアフリー化するだけでなく、必要に応じた段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげていくところの両方を大切に考えている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			・週に1回の事業所内会議、毎月2回の法人内会議にて、必要に応じて業務改善についての話し合いを行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか			○	・自己評価表の結果及びその改善内容について、ホームページで公開をしている。 ・保護者等の意向を業務改善につなげてはいるが、更なる努力が必要である。 ⇒今後、アンケート結果をもとに、保護者との話し合いの場を持つことを大事にしていく。
	6 この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			・今年度、第三者による外部評価を実施。評価結果を職員間で共有し、改善策について話し合いを行い、できることから業務改善につなげている。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか			○	・法人内研修を企画、実施している。また、研修に関する情報提供により研修機会の確保を行っている。しかし、全体的に外部研修への参加機会が少ない。 ⇒年度初めに、各職員の研修計画を立て、研修への参加機会の確保を図る。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・1年に1度アセスメントを行い、保護者から最新の情報を聞き取りするとともに、利用者や保護者の希望等を共有し、課題を分析している。また、6か月に1回モニタリングを行い、保護者と課題を共有した上で支援計画の見直しを行っている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか			○	・事業所内で統一したアセスメントツールを活用しているが、より具体的に子どもの状況を把握するため、アセスメントツールの見直しが必要である。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・週に1回の会議の中で、活動プログラムの内容を職員間で共有し検討している。また、活動後には会議の中で振り返りを行い、次の活動に活かせるようにしている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・季節毎に伝統行事をとり入れた活動を工夫している。また、季節に合わせた自然体験を取り入れ、利用者それぞれの発達に合わせた配慮をしながら、さまざまな体験ができるようにしている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			・学校休業日には、サービス提供時間を拡大し、午前中の活動が保障できるようにしている。 ・長期休暇には、普段できないお泊り活動や自然体験などを企画して行っている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・恵の実つ子クラブ(学童クラブ)との統合保育を活かし集団的活動を行うところと、個別活動による個の充実、また少人数活動など、利用者の発達等の状況に合わせてそれらを組み合わせ支援計画を作成している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・支援開始前には、その日の活動内容や送迎等の役割分担などの確認を行っている。 ・恵の実つ子クラブとの統合保育を行う上では、更に綿密な打ち合わせが必要である。 ⇒支援開始前に打ち合わせを行う十分な時間を確保する。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか			○	・支援終了後は、保護者対応等で職員全員が集まりにくく、細かな支援の振り返りの共有まではその日のうちに行いにくい。翌日等の支援が始まる前までに、共有ができるようにしている。その日のうちに共有すべきことは、メール等を使用し職員間で共有できるようにしている。
	17 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・その日の支援の内容や利用者の様子を記録に残している。記録をもとに、支援の検証や改善、子どもの発達を検証する材料としている。
関係機関や保護者との連携	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・半年に1回以上モニタリングを行い、職員間で検討をし合い、支援計画の見直しを行っている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○			・ガイドラインの基本活動を組み合わせるものになっている。
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・主に児童発達支援管理責任者が出席し、情報の共有を行っている。必要に応じて利用者に関わるその他の職員も参加できるようにしている。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか			○	・行事予定の確認や送迎時の対応、トラブル発生時の連絡等については学校との情報共有はできている。 ・利用者の学校での様子や事業所での様子などの情報共有について、今後積極的に行えるよう連携をとってきたい。
22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	・体制が整っていない為、医療的ケアが必要な子どもの受け入れはしていない。	
23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・担当していた職員より利用者や保護者の様子等の情報を引継ぎ、円滑な移行ができるよう努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容の情報を提供する等しているか				・これまで、ステップくんに通所している利用者は小学生までとなっており、障害福祉サービス事業所への移行はない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	・利用者の通院している病院と連携を取り、助言を受け療育に活かしている。豊川市内に児童発達支援センターがないこともあり、センターとの連携は行っていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			・同法人内にある、恵の実つ子クラブ(学童クラブ)の子ども達と統合保育を行っており、日常的に障がいのない子どもと活動する機会がある。
	27	(地域自立支援)協議会へ積極的に参加しているか			○	・豊川市内の放課後等デイサービスが集まる連絡会に入っているが、積極的な参加ができていない。 ⇒次年度は連絡会に参加をすることで、自立支援協議会について情報共有ができる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・日頃の利用者の様子を、できる限り保護者に伝えるようにしている。 ⇒今後、更に保護者と情報共有しやすい工夫をしていく(やりとりノートの活用、どの保護者とも同等に情報共有ができる仕組みをつくるなど)
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか			○	・面談時に、家庭での対応方法を助言したり、母子通園をしてもらい、子どもと直接関わる中で子どもとの関わり方や子どもの理解の仕方を伝えている。しかし、すべての保護者の方に対して十分に行っていないところもある。 ⇒家族支援の取り組みを見直し、計画的に実施していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			・契約時に、書面と口頭で説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・保護者からの相談にはできる限り迅速に対応し、職員からも声をかけ保護者の悩みに気づいていけるよう留意しているが、保護者がより悩みを相談しやすい工夫がさらに必要である。 ⇒今後、定期的な茶話会の実施、意見箱の設置、相談を受け付けるメールアドレスの開設をしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・親の会や学習会を実施し、保護者同士の連携を支援してきたが、今後さらに保護者一人一人が満足する支援となるよう工夫が必要である。 ⇒発達や悩みに合わせて小グループでの茶話会を定期的に実施していく。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・契約時に、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者委員の設置などの情報を伝えている。相談や申し入れがあった場合、できるだけ速やかに職員間で話し合いの場を持ち、改善につなげるよう心がけている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・活動ごとに活動概要や活動のねらい、活動後の報告などをお便りにして伝えている。 ⇒今後、定期的な会報の発行を検討していく。
	35	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			・書類は、鍵のかかる書棚で管理している。職員は、年度初めに守秘義務や書類の管理の仕方について周知をしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			・子どもとの意思疎通については、利用者それぞれに合わせて伝え方の工夫をしたり、視覚的な手立てを利用するなど配慮している。 ・保護者への情報伝達については、口頭だけでなく書面で伝えたり、必要に応じて個別で丁寧に対応するようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			・法人として夏祭りを行い、地域住民の方を招待したり、地域清掃に参加するなど、機会は少ないが地域との交流を図っている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか			○	・各マニュアルを策定はしていたが、内容に不十分なところがあった。今後、実働に合わせてマニュアルを整備し直し、周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			・定期的に避難訓練を実施している。今年度、新しい園舎になったこともあり、避難訓練を繰り返しながら改善点を見直し、非常災害に備えていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			・主に管理者や児発管が虐待防止に関する研修に参加し、その後管理者や児発管より虐待防止に関する情報提供を行っている。今後は、直接保育にたずさわる職員が虐待防止の研修に参加できるよう計画をしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			・身体拘束になりうる可能性がある場合は、保護者への確認や説明を行い、支援計画に記載するようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか				・現在アレルギーの子はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・ヒヤリハットがあった際は、すぐに関係職員、管理者、児発管で検証と再発防止について話し合う対策会議を行っている。また、その内容を記録し、職員間でも共有するようにしている。職員会議等で、再度情報共有する場をもち、再発防止に努めている。